

# 「AI の歴史」

呉工業高等専門学校 電気情報工学分野  
准教授 井上 浩孝

**実施内容の概要：**近年、AI(人工知能)が実用化され、さまざまな分野で活用されています。この出前授業では、オンラインでこれまでのAIの歴史をお話します。さらに、今後AIがどのように利用され、よりよい社会へと発展していくのかの展望をお話します。

## 内容の詳細：

AIの歴史は、1956年から始まります。AI(Artificial Intelligence)という言葉は、アメリカのダートマス大学において、「ダートマス会議」という研究発表会が開催され、当時その大学に在籍していたジョン・マッカーシーが、会議の提案書においてはじめてAIという言葉を使ったとされています。

近年におけるAIブームは、初めて起こったものではなく、これまでの歴史の中で何度も流行になったことがありました。しかしそのたびに冬の時代を迎えていました。それらの流行と冬の時代は大まかに3つの時代に分けて語られます。

第1次AIブームは「推論と探索の時代」と呼ばれています。1950年代末～1960年ごろに流行し、簡単な迷路などの問題を解くことができるAIが開発され、それが話題になり流行となりました。しかし複雑な問題には対応できなかったため、1970年代後半からはさまざまな人工知能研究への投資が打ち切られるなど、冬の時代に入ってしまった。

第2次AIブームは「知識の時代」と呼ばれ、1980年代ごろから再度注目を集めました。当時、専門家の「知識」を用いて質問に答えたり問題を解いたりするプログラムである「エキスパートシステム」が話題になりましたが、そのデータベースの管理のたいへんさや用途が限定的すぎることで、ここでもまた冬の時代を迎えてしまいます。

第3次AIブームは「機械学習・特徴表現学習の時代」、もしくは「ディープラーニングの時代」などと呼ばれ、以前のブームの反省を活かし、再度ブームとなっています。2012年に物体の認識率を競うILSVRCという大会において、ディープラーニングを用いた技術が圧倒的な精度を出したことや、2016年には囲碁対戦用AI「AlphaGo」が人間のプロ棋士に勝利したことなどから注目を浴び、ブームとなりました。

この出前授業では、これまでのAIの歴史を振り返り、AIの現状を紹介することで、みなさんが大人になったときに未来の進化したAIと共存する社会について考えてもらいたいと思います。

開催日：ご相談ください

対象人数：40人程度

時間：50分（1クラス）

その他：オンライン開催